

令和六年六月三日 開会  
令和六年六月魚津市議会定例会提出議案

市長提案理由説明要旨

本日ここに、令和六年六月魚津市議会定例会が開催されるに当たり、市政運営について所信の一端を申し述べますとともに、提案いたしました案件について、その概要をご説明申し上げます。

はじめに、「今般の経済情勢」について、申し上げます。

内閣府が発表いたしました五月の月例経済報告では、なお個人消費を中心に弱い動きが出ているものの、設備投資に持ち直しの動きがみられることなどを反映し、「景気は、このところ足踏みもみられるが、緩やかに回復している」とされております。

先行きにつきましては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、緩やかな回復が続くことが期待される一方、海外景気の下振れが景気を下押しするリスクとなっているほか、物価上昇や中東地域をめぐる情勢等に加え、令和六年能登半島地震の経済に与える影響に十分留意する必要があるとされております。

また、政策の基本的態度につきましては、三十年続いてきたコストカット型経済から持続的な賃上げや活発な投資がけん引する成長型経済へ変革するため、新しい資本主義の取組を加速させるほか、能登半島地震の被災者の生活、生業の再建をはじめ、被災地の復旧・復興に至るまで、切れ目なく対応するなどとしており、こうした取組を通じて、デフレに後戻りしないとの認識を広く醸成し、デフレ脱却につなげるとともに、新たな成長型経済への移行に向け、あらゆる政策手段を総動員していく、と示されております。

一方、本市の経済情勢につきましては、市内企業において設備投資の動きが多少見受けられるものの、物価高騰等の影響により、魚津管内における三月の有効求人倍率が一・三八（前年同月：一・五一）と、十四か月連続で前年同月を下回るなど、能登半島地震の発生も相まって、いまだ改善の動きが弱い状況にあります。

このことから、本市といたしましては、今後の経済状況や国・県の動向を注視しながら、地域経済の回復と安定的な市民生活の確保をはじめ、能登半島地震により被災された方々への支援及び本市における防災対策の推進に向けて、必要な対策を速やかに講じてまいりたいと考えております。

次に、「最近の市政の取組状況」について、申し上げます。

去る四月二十八日に、初夏を感じさせる陽気の中、「第四十四回魚津しんきろうマラソン」が盛大に開催されました。

今大会においては、前回大会より七百二十一名多い四千二百七十四名の方にエントリーいただき、ゲストランナーとしてお招きした東海大学陸上競技部の三選手とともに、大勢のランナーがしんきろうロードや市街地を駆け抜け、給水ボランティア等多くの支えもいただき、清々しい汗を流されました。

コロナ禍以前の水準とまではいかないものの、大会に本来の賑わいが戻りつつあることは大変喜ばしい限りであり、参加された皆様には、雄大な立山連峰と、しんきろうの出現による幻想的な富山湾に見守られながら、魚津の地を爽快に走っていただけたものと思っております。

しんきろうマラソンは、本市が誇る春の一大スポーツイベントであり、今後、市内外からさらに多くのランナーに参加いただけるよう、スポーツの振興はもとより、本市の豊かな自然や歴史・文化などの魅力発信に引き続き努めてまいりたいと考えております。

また、五月十九日には、魚津駅前通りにおいて、「第十二回よっしゃ来い！！CHOUROKU(ちょうろく)まつり」が開催されました。

ダンスコンテストでは、スクール部門に十六チーム、コンテスト部門に二十六チームが出場し、熱気あふれる華麗な踊りが競演されたほか、県内外から八団体の参加による「よさこい演舞」も披露され、その力強い踊りで会場全体が大いに盛り上がっておりました。

このほか、市役所前公園にて同時開催された「魚津ビアパーク（えきてん）」においても、県内外から二十五店舗もの多彩な飲食ブースが出店され、多くの来場者により大変な賑わいを見せておりました。

市民自らが企画・運営し、毎年五月の恒例イベントとして定着しているこの取組は、市民に元気と活力を与えると同時に、さらなる交流人口の拡大につながるものと、大変心強く感じております。

次に、「児童発達支援センターつくし学園」について、申し上げます。

上野方小学校跡地において、民設民営として魚津市社会福祉協議会により整備が進められておりました、「児童発達支援センターつくし学園」が、六月一日に開園いたしました。

整備に当たりましては、これまで旧つくし学園の施設運営に長く携わってこら

れた同協議会のノウハウや専門知識をはじめ、利用者の皆様のご意見等が取り入れられ、大変充実した施設となっております。

加えて、敷地内に設置されたインクルーシブ遊具の導入に当たりましては、クラウドファンディングを活用され、大変多くのご支援をいただいたと伺っており、障がい児福祉の中核施設として、市内外からの期待と関心は非常に高いものと考えております。

また、同敷地内においては、上野方コミュニティセンターと同協議会の事務所を併設した上野方地域複合施設を建設予定であり、現在、設計業務に係る公募型プロポーザルの募集を行っているところであります。

児童発達支援センター及び複合施設の整備を契機に、上野方地区のさらなる活性化が図られるとともに、本市の福祉の中核として、市内外の人々が交流する場となることを、心から期待しております。

次に、「定額減税」について、申し上げます。

賃金上昇が物価高に追いついていない状況を踏まえ、国民の負担を緩和するため、令和6年度税制改正により、デフレ脱却のための一時的な措置として、所得税と個人住民税を対象とする定額減税が、今月からいよいよ開始されます。

定額減税につきましては、扶養家族を含め、一人につき、所得税額から三万円、個人住民税所得割額から一万円の定額減税額がそれぞれ控除されることとなり、本市では、個人住民税に係る定額減税の実施に向けて、現在、準備を進めているところであります。

また、所得税と個人住民税では、定額減税の実施方法等が異なることから、市ホームページにより周知を図りながら、適切に取り組んでまいりたいと考えております。

物価高騰が長期化する中、定額減税により、市民の皆様の家計負担軽減が図られるとともに、景気の回復及び地域経済の活性化につながることを切に願っております。

それでは、「今定例会に提出いたしました案件」について、ご説明申し上げます。

まず、予算関係の議案といたしまして、「議案第四十三号 令和六年度魚津市一般会計補正予算（第一号）」は、歳入歳出予算の総額に二億五百五十四万円を追加し、歳入歳出予算の総額を、それぞれ百九十四億一千八百五十四万円としたいのであります。

今回補正する主なものは、国の補助事業を活用したゼロカーボンシティ推進

事業の一部前倒しやオンデマンド交通実用化事業のほか、木造住宅耐震化及び危険ブロック塀対策への支援の拡充や企業立地助成金など、必要欠くことのできないものに限定し、計上いたしました。

これらの財源として、国庫支出金、県支出金、寄附金、繰越金、諸収入及び市債を充当いたしております。

「議案第四十四号 令和六年度魚津市水族館事業特別会計補正予算（第一号）」につきましては、歳入歳出予算の総額に二百三十一万三千円を追加し、歳入歳出予算の総額を、それぞれ二億六千七百六十一万円としたいのであります。

今回補正する主なものは、海水取水ポンプ室内の真空ポンプ購入費など、必要欠くことのできないものに限定し、計上いたしました。

これらの財源として、繰入金を充当いたしております。

予算以外の議案といたしましては、まず、条例関係の議案といたしまして、議案第四十五号から第四十九号まで、「魚津市行政手続における個人番号の利用等に関する条例」などについて、一部改正を五件提案いたしております。

また、その他の議案といたしましては、「議案第五十号 富山県後期高齢者医療広域連合規約の変更」について、提案いたしております。

最後に、報告案件といたしましては、報告第二号から第六号まで、「令和五年度魚津市継続費繰越計算書」などについて、五件報告いたしております。

以上、本日提出いたしました案件の説明といたします。

何とぞ、慎重審議のうえ、議決賜りますよう、お願い申し上げます。